

「ならなぎ よりみちクラブ」活動報告

報告者： 服部 弘子

日時	2024年2月8日(木) 10時30分～15時	天候	晴	コース名： 第45回よりみちクラブ	
案内団体 又は催事 名	行基めぐり in 堺			人数	大人：19名

集 合：泉北高速 深井駅 改札口 10時30分

ガイド：堺観光ボランティア協会ガイド 奥野さん 中川さん（2名）

行 程：泉北高速深井駅→大野寺→土塔(昼食)→蜂田神社→華林寺→大池体育館(トイレタイム)→
家原寺→JR 津久野駅

出席者…山下(裕)・北川・玉尾洋・堀内け・澤井・村上・義田・上森・樋野・嶋田・福島・山口・久賀田・奥山
武田・嶋村・森・玉尾ひ・服部 計 19名…順不同・敬称略

(午前中 深井駅～土塔公園)

泉北高速深井駅で2班に分かれて出発。駅から東へ向かう。道々ガイドの奥野さんから「深井」というこの地名は行基と関係があると教わる。行基は当時の仏教が寺の中で国家安泰を祈るものとされていたものを民衆の中で布教して、多くの寺、池、港、布施屋などを作った。そして多くの井戸も掘った。行基が生まれたこの地に行基によって深い井戸が掘られたので「深井」だそう。

大野寺は行基開祖四十九院の一つとされる。土塔はこの寺の仏塔として、寺とともに行基60歳くらいに創建されたようだ。何度か再建されたが、江戸時代に燃えた後、平家末裔の小谷氏が復興したそう。特別に本堂を見せてもらう。本尊は木造十一面観音立像、脇に控える持国天、多聞天とともに平安後期に作られたものを江戸時代に復興した時に客仏として迎える。十一面観音立像は少し寸足らずの感がある。それは朽ちた下の方を削って修復されているからとのこと、きれいに金でおおわれて美しいお姿であった。土塔で出土した「高史家思」と彫られた瓦も所蔵しておられる。

土塔は神亀4年(727年)の起工。協力した人たちの名前が彫られた瓦が多数出土。多くの協力者が瓦を寄進し、積極的に土塔建築に参加。ガイドさんに古代の土木建築を詳しく説明してもらった。また、当時須恵器や瓦製造の技術集団であった土師氏・大鳥氏・高志氏なども協力したのではないかとされている。

一辺53.1m 高さ8.6mの十三重の瓦が敷き詰められた仏塔で、一番上の13段目には丸い基壇があり、八角円堂があったのではないかと考えられていて、公園内に塔の乗ったミニチュアの塔が作られている。

この土塔公園のベンチで分かれて昼食をとった。

(午後 土塔～家原寺～JR 津久野駅)

午後からは深井駅に戻り、バス組と徒歩組に分かれて蜂田神社へ。行基の母である蜂田古爾比売の実家である蜂田の一族が天児屋根命を主祭神として祀ったとされる。この地域の町名が「八田寺町」これは「はんだいじちょう」と読むと教わった。これは難解、なかなか読めない。木につるされたたくさんの試験管のような容器に水仙の花が生けられていたり、鮮やかなアレンジメントの生け花が神社を彩っていたり。少し違和感。この神社の宮司さんが女性でその方の趣味なのか？宮司さんが自ら焼かれる土焼きの鈴(今年はぽっちゃりの辰の形)12個の音で今年の吉兆が占われるとか。そのため「鈴の宮」ともいわれる。

そこから、華林寺へ。行基13歳の時に蜂田連の氏寺として建てられ、706年行基39歳の時に再興したといわれる。しかし、多くの戦乱で衰退し、大坂冬の陣で焼失。1679年に僧広恵によって中興。家原寺の奥の院。本尊は薬師如来。行基13歳の出家前の姿の絵が残っている。旧暦の2月2日の命日に掲示してお勤めするそう。

大池体育館でトイレ休憩をした後、家原寺へ。行基はここで生まれ、704年、父親の菩提を弔うため、母の実家である生誕地に寺を建てたのが家原寺。南大門には向かい合った仁王像。これは明治時代に近隣の寺院より移設されたも

の。本来の仁王像はアメリカのワシントンにあるフーリエ博物館に収蔵されている。運慶・快慶作とか。あれば国宝だなと思った。

本尊の文殊菩薩は秘仏。行基自らが作ったと言われている。白毫に菩提遷那が持ってきた一寸八分の黄金の文殊像が収められているとか。文殊菩薩を本尊とした最初の寺と言われる。そのために本尊の文殊菩薩の脇侍、左に釈迦如来、右に普賢菩薩と非常に変わった祀り方をされている。この寺も数々の変遷があり、空海、叡尊が中興の祖であるとして開山堂に二人の像が安置されている。現在の本堂は1648年に再建された。知恵の文殊菩薩が本尊であるため、受験生が寺のいたるところに落書きをしたため、ハンカチに願いを書いて貼り付けるようにした。それで「落書き寺」「ハンカチ寺」とも呼ばれている。本堂(文殊堂)にはいたるところにハンカチが貼り付けられていた。東の高台に平成元年に再建されたという三重塔が建つ。工事中のためか寺の塀もなく、寺らしくない雰囲気。今後整備されるのだろうと思う。

大野寺・土塔から、行基生誕の寺まで行基さんの一生を逆タイムトンネルでめぐるツアーであった。

【所感・雑感・反省点、申し送り事項など】

お天気に恵まれ、約 10 キロのツアーであった。

一度は訪れてみたいと熱望していた堺。近鉄奈良駅で待ち合わせの場所として目印に建ってくださっている行基さんのルーツに触れることのできた素敵な一日だった。

由緒正しい堺の観光スポットの土塔を所有していた(現在は堺市所有)大野寺。なのに、なぜか冷めたご意見を持たれる大野寺のご住職。工事中なのか雑然とした街中の家原寺。予想とはかなりかけ離れていたけれど、堺の観光ボランティアガイドの奥野さんが分かりやすく説明してくださって、とても満足した。しかし、班によってガイドさんの力量に差があったようだ。我々も頑張ってガイドしなければと、より一層気を引き締める思いだった。堺と言えば百舌鳥古墳群、そして商人の町環濠エリア、今日巡った行基ゆかりの地、魅力たっぷりの堺の町にまた訪れたいという思いで家路についた。

説明をしていただき、いつもは中に入れない大野寺に志納料 3000 円(ならなぎ会計より)

いつもは拝観料がいるはずの家原寺へは問い合わせたところお気持ちだけでとおっしゃったので、皆さんから集めた拝観料を志納料としてお渡した。以上

